

令和3年度社会福祉法人ないえ福祉会 事業計画

事業方針

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の為、各事業で様々な影響を受け、試行錯誤をしながら何とか乗り越えた一年となりました。そのような中でも利用者や職員から感染者を出さず一年を送れたことは対策に協力していただいた利用者や保護者、職員のお陰だと思えます。令和3年度についても当面は感染拡大の影響を避けられないことが予想されるため、引き続き感染対策の徹底を継続し事業運営を行っていききたいと思います。

令和3年度は、3年に一度の報酬改定が行われます。現在、出されている報酬改定の概要では、全体で0.56%のプラス改定となる見込みです。ないえ福祉会の事業ごとではマイナス改定となる事業もあり、法人全体でプラス改定とはいかない見込みですが、報酬改定の基本的な考え方などに沿って事業を進めていききたいと思います。今回の報酬改定では、加算等の見直しの他、新型コロナウイルスに対応する特例的な評価なども含まれており、該当する加算の取得など積極的に行い安定した事業運営ができるよう工夫をしていききたいと思います。

各事業所の設備面では、令和2年6月に申請を行っていた社会福祉法人清水基金の助成が決定し、あじさいの新築計画が進められるようになりました。期限である12月末までに建設できるよう計画的に進めていききたいと思います。その他、本体施設の設備面では建設から25年が過ぎ火災報知設備や受水槽等、更新が必要な時期となっています。費用も多くなることから更新についても優先順位を考え計画的に進めていききたいと思います。

中・長期計画

(1) 入所事業

- ・自動火災報知設備の更新
- ・受水槽の更新
- ・入所施設の災害等への対策
- ・暖房設備の更新
- ・経過措置期間である一人部屋の改修とナースコールの設置に向けた調査、準備
- ・地域交流ホームの改修工事に向けた検討
- ・本体施設浄化槽のかさ上げ工事
- ・入所施設建て替えに向けた積立

(2) 就労事業

- ・利用者更衣室の設置
- ・椎茸ビニールハウスの設備等の更新
- ・培養室のエアコン設備
- ・利用者の高齢化を踏まえた事業の検討

(3) 共同生活援助事業

- ・ あじさい建て替え新築工事
- ・ ききょう屋根のメンテナンス
- ・ アルク屋根のメンテナンス
- ・ 各ホームの災害等への対策
- ・ 日中サービス支援型共同生活援助事業の情報収集、調査

(4) 居宅介護事業

- ・ サービス提供方法の調整や見直し
- ・ 共同生活援助事業との連携強化
- ・ 居宅介護事業の広報活動、意向調査等
- ・ 市町村に対しての移動支援費等の見直し要請

具体的事業

1. ハード面の事業について

社会福祉法人清水基金の補助金交付が決定したグループホームあじさいの新築工事をはじめ、建設後 25 年が経過する本体施設の設備等の更新、事業ごとに必要な修繕や改修等を計画的に行っていききたいと思います。また、引き続き感染対策や災害等に強い施設づくりを目指し、利用者が安心して生活できるよう環境の整備を行っていききたいと思います。

- (1) グループホームあじさいの新築工事
- (2) 本体施設自動火災報知設備の更新
- (3) 本体施設受水槽の更新
- (4) 屋外防犯カメラの増設
- (5) グループホーム発電機の購入
- (6) すまっしゅ利用者更衣室の設置
- (7) すまっしゅ椎茸ハウスの整備

2. ソフト面の事業について

人材確保については、年々厳しさを増しています。職員の処遇向上等を行い、働きやすい環境づくりを行っていききたいと思います。また、人材確保に向けた他の法人などの工夫や取り組みなどの情報収集や調査なども行っていききたいと思います。

- ・ 賃金改善のため処遇改善加算の取得
- ・ 適切な労働時間の管理と管理方法の効率化
- ・ 新卒者確保に向けて求人サイトへの契約検討、奨学金制度の調査等
- ・ 職員のスキルアップのための他事業所との職員交流

3. 日中活動系事業について

就労継続B型事業では、令和2年度と同じく41名の利用者とスタートします。ハード面では、男女利用者更衣室が古くなりましたので、新しくプレハブを設置し、快適に活動ができるよう整備をすすめます。

令和元年度の利用者の平均工賃は、目標としていた15,000円を上回り、16,500円に達しました。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響での落ち込みはありましたが、平均工賃額の維持を目標にしています。事業所内での作業の他、施設外での活動も取り入れながら社会参加し、利用者一人ひとりの年齢や特性を見極めながら、楽しく活動していきたいと思っております。

就労移行事業には2名の利用者が加わります。お互いに刺激を受け、助け合いながら活動し、就職に向けての意欲と自信を持てるよう支援します。

令和3年度の就労定着事業の利用者は5名です。職場やご家族とも連携し、安定して働けるようサポートを続けていきます。

生活介護では、令和3年度も利用定員40名に対して47名の利用者となっています。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で利用率が下がり、また更に今年度は3年に1度の報酬改定で基本報酬が下がる見込みです。厳しい現実を突きつけられていますが、新たに重度障害者支援加算の見直しや常勤看護職員等配置加算の拡充などの見直しも見込まれるため、制度や報酬についての知識を深め、算定条件を満たす加算については、取得できるよう準備していきたいと思っております。

活動としては、今年も感染症予防に努めながら、体操や散歩などの健康活動を中心に行っていきたいと思っております。利用者の中には高齢の方や重い障がいを持つ方、年齢差や特性の違いなど様々ありますが、散歩や自立課題の活用を行いながら体力維持や精神安定に努めた支援を行ってきたいと思っております。また、高齢利用者に対しての活動面での検討や見直しを行い、重い障がいを持つ利用者への支援技術の向上に力をいれ、利用者の希望に出来るだけ答えながら楽しく活動が出来るように努めていきたいと思っております。

4. 施設入所支援事業について

施設入所支援は、定員40名を満たしていますが現在、利用者1名が長期入院中となっています。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で研修会等が中止となる中、オンラインでの研修参加を進め、強度行動障害支援者養成研修受講者を増やし、個別の支援を報酬に繋げることができました。令和3年度についても職員の支援技術向上と支援を報酬へ繋げるよう研修参加等を進めていきたいと思っております。また、利用者の高齢化に伴い、介護技術等の習得についても行ってきたいと思っております。人材確保については引き続き課題となっています。他の法人では独自の奨学金制度等を設けて人材確保に努めているところがあるので人材確保についての情報収集や調査等も行ってきたいと思っております。施設入所支援では、令和3年度の報酬改定で微増となる見込みです。障がいの重たい利用者への支援や利用者の高齢化に伴う支援などが評価されるように変化してきています。変化に対応できるような体制作りを今後も行っていきたいと思っております。

5. 居宅系事業について

①共同生活援助事業

共同生活援助事業は、この春に高等養護学校卒業生1名（男性）を迎えることが決まっております。満室でスタートします。

令和2年度に申請した清水基金の補助金交付が決まり、あじさい建て替え新築工事を進めますが、新あじさいは7室の設計であり、定員が1名増となる計画で、完成後にはさらに1名の女性入居者を迎える予定となっております。夜勤者の配置やスプリンクラーの設置を計画しており、支援区分に影響されることなく希望する皆さんに入居していただけるホームとなりますが、計画としては、若い世代の利用者を中心に編成させていただき、年齢に見合った活動を積極的に取り入れたいと考えています。

日中活動に参加することが難しくなってくる入居者のためにも、継続的に日中の支援について基盤を整備していく必要がありますが、現在は日中活動系サービスを利用する入居者の意欲や生きがいを感じる場面も多く、一人ひとりの思いに寄り添って、希望する生活が続けられるようサポートします。

令和2年度は2名の生活支援員が退職しました。人材を確保することが毎年の課題であり、常に緊張があります。働きやすい職場であることはもちろん、魅力に溢れる仕事であることを発信しながら、働いていただいている皆さんを大切に、人材育成にも努めていきます。

②短期入所事業

短期入所事業では、前年度と同様に定期的に利用している利用者と就労移行実習生の実習中のショートステイの受け入れを行いました。今年は新型コロナウイルス感染症が流行した為、感染症予防の観点から11月後半から緊急時を除き、利用を自粛していただきました。その為、稼働率も例年の半分程度となっております。令和3年度も感染状況を踏まえながら利用希望があれば都度検討し、緊急時には受け入れられる体制を整えながら地域の大切な資源として事業の継続をしていきたいと思っております。

③居宅介護事業

居宅介護事業は、令和2年度に実地指導があり、一部要件を満たしていない加算請求があったと指摘を受け、過誤調整の後、関係書類を精読し制度についての理解を深め、再び加算が請求できるよう体制を整えてきました。今後も制度を正しく理解して事業を継続できるように努めます。

令和2年度は新型コロナウイルスによる影響を大きく受けましたが、共同生活援助事業との連携を強化し、工夫しながら安定したサービスの提供に努めています。要望も多く寄せられるようになり、特に健康管理の面では効果も見え、継続することの大切さを肌で感じます。

高齢になり生活環境を調整していく必要を感じる利用者も多く、老化と上手に付き合っていく手助けが求められています。ご本人の望む生活が長く続けられるように、思いに寄り添いサポートしてまいります。